

# 平成30年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年3月22日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並	少ない	多い

○4月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① バッタ類	並	↗	成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② カンシャコバナナガカメムシ	並	↗	冬期に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ メイチュウ類 (イネヨトウ)	やや多	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	② そうか病	やや多	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	(発生なし)やや少	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	② そうか病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミカンハモグリガ	(発生なし)並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハダニ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移、トラップの誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ハダニ類	並	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
キャベツ	① 菌核病	(発生なし)並	↘	今後1か月の気温が平年並の見通しから、発生量は3月より減少すると考えられる。
	② コナガ	並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
レタス	① 菌核病	(発生なし)並	↘	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月より発生量は減少すると考えられる。
	② アブラムシ類	並	→	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
かぼちゃ	① ウイルス病	並	↗	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みであることから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	やや少	↗	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	→	今後1か月の気温が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
ゴーヤー (施設)	① モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)	多	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	多	↗	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 斑点病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	④ ミナミキイロアザミウマ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
ピーマン	① モザイク病	多	→	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	② うどんこ病	やや多	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	多	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
トマト	① 黄化葉巻病	並	↗	発生ほ場率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ウイルス病 (黄化葉巻病以外)	多	→	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ うどんこ病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	① タバココナジラミ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ハモグリバエ類	やや多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出蕾・開花期にも感染するため、果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
ゴーヤー (施設)	モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	3月下旬の調査の結果、発病株率は11.2%(前年2.0%)で、発生ほ場が増加している。 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に務める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、密閉処分する。
ピーマン	スイカ灰白色斑紋ウイルス	3月上旬の調査の結果、発病株率は0%であった。 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に務める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、密閉処分する。
トマト	すすかび病	3月上旬の調査の結果、発病株率は9.7%(前年38.6%)であった。 多発すると防除が困難になるので、発生前に予防散布を行う。 老葉は除去し、多湿条件や過繁茂は避ける。
トマト	立枯れ性病害	3月上旬の調査の結果、発病株率は6.3%であった。 かいよう病、萎凋病等が確認された。 発生ほ場では次期作植付前に土壌消毒を行う。

# 平成30年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年3月22日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並	少ない	多い

○4月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	→	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	② ハダニ類	やや多	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ	① ウイルス病	並	↗	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みであることから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 細菌性病害	(発生なし)並	↘	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は減少すると考えられる。
	④ アブラムシ類	並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハモグリバエ類	(発生なし)やや少	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ タバココナジラミ	並	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
とうがん (施設)	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハモグリバエ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	→	雌成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予のつづき（宮古群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	やや少	→	発病葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	アワヨトウ	関係機関からの報告によると、アワヨトウの被害が確認された。バッタ類に類似した食害痕がみられる場合、周辺の未展開葉部、葉鞘や株下に幼虫がいないか確認し、早期防除を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出蕾・開花期にも感染するため、果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

# 平成30年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年3月22日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並	少ない	多い

○4月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
水稻	① スクミリングガイ	やや多	↗	貝数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
さとうきび	① カンシャコバナナガカメムシ	やや少	↗	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチユウ類 (カンシャシンクイハマキ)	やや多	↗	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチユウ類 (イネヨトウ)	並	↗	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ハダニ類	(発生なし)やや少	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ	① モザイク病	並	→	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が横ばい傾向の見込みであることから、発生量は3月と同程度と考えられる。
	② うどんこ病	多	↗	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	多	→	今後1か月の気温が平年並の見通しから、発生量は3月と同程度と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	並	→	今後1か月の気温が平年並の見通しから、発生量は3月と同程度と考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	多	→	今後1か月の気温が平年並の見通しから、発生量は3月と同程度と考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	多	↗	発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	並	↘	発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	多	↗	成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	多	→	成虫・幼虫数の例年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	白すじ病	3月中旬の調査の結果、発生ほ場率は31.2%であった。 また防除員の報告によると、波照間島で発生が確認された。 発生ほ場からは採苗しない。また多発ほ場では抵抗性品種を利用する。
さとうきび	アワヨトウ	3月中旬の調査の結果、一部ほ場で発生が見られた。 バッタ類に類似した食痕が見られたら未展開葉や葉鞘の隙間を確認し、幼虫がいる場合は速やかに薬剤防除を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出蕾・開花期にも感染するため、果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
かぼちゃ	細菌性病害	3月中旬の調査の結果、発病葉率は24.2%（前年8.8%）であった。 ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
ゴーヤー （施設）	灰白色斑紋病	3月中旬の調査の結果、発生株率は7.2%であったが、一部ほ場で多発した。 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に努める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、密閉処分する。





向こう1か月の天候の見通し  
沖縄地方（3月24日～4月23日）

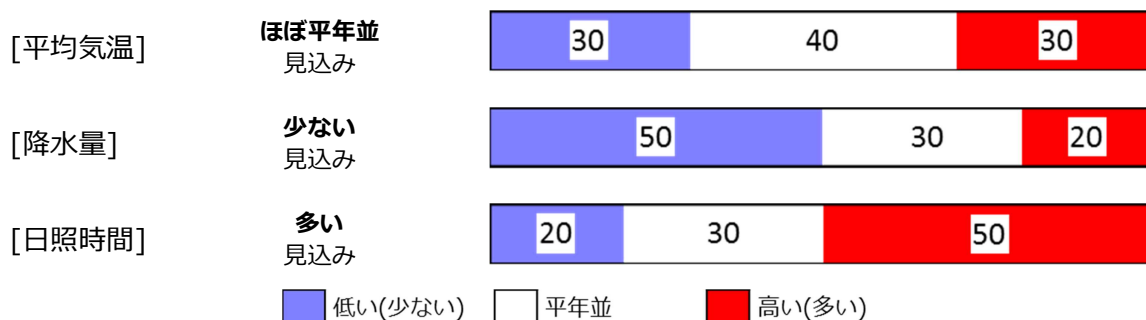
○ 気象予報のポイント

- 向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ曇りや雨の日の少ないでしょう。
- 向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並でしょう。



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

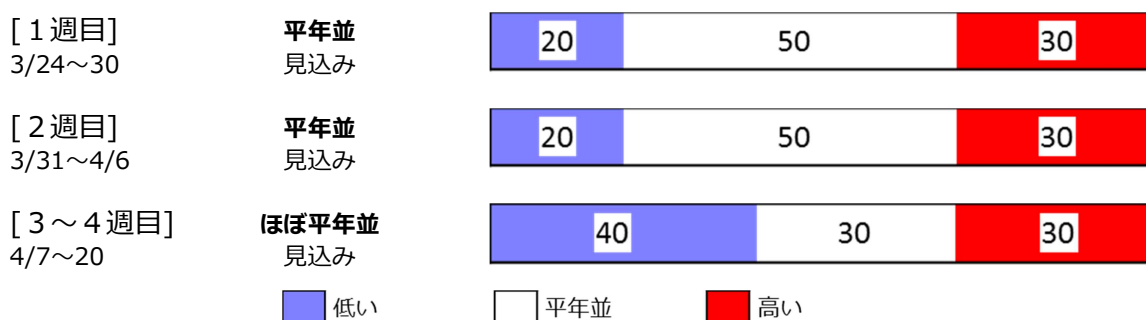


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.2℃	平年比：81～112%	平年比：90～104%
那覇	20.3～20.9℃	121.8～186.4mm	98.4～113.1時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.5～+0.6℃	平年差：-0.6～+0.6℃	平年差：-0.4～+0.3℃
那覇	19.4～20.6℃	19.8～21.0℃	20.7～21.6℃

- ※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
- ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>

本 所 〒902-0072 那覇市字真地123  
TEL 098-886-3880  
FAX 098-884-9119

宮古駐在 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40  
(農研センター宮古島支所内)  
TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474

八重山駐在 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6  
(農研センター石垣支所内)  
TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157